みどりの東北

各地からの便り

森林教室で下刈林業体験

岩手北部森林管理署

7月13日(水)田山小学校5年生、6年生を対象に「昨年植樹した樹木の下刈体験と、田山地区の水源地を探してみよう」をテーマに今年3回目の森林教室を開催しました。

当日、林野庁治山課の乾課長補佐を特別講師に迎え、1時間目は教室において、世界の森林と日本の森林の比較や世界の森林が減少している状況、また、日本に残存している大木の分布位置、荒廃地の森林復旧、海岸防災林造成、これを達成するための先人の植林などの苦労を講義した後、3月11日に発生した東日本大震災の惨状、それに対する海岸防災林の効果などについて資料やパワーポイントを用い解りやすく講義をしました。

質問に入り生徒達から「大木はどうして日本の南に多いのか」「日本は森林が多いと説明されたがどうして家を建てるのに利用されないのか」の素直な質問に汗をかきかき答えていました。

その後、昨年植樹祭で広葉樹を植栽した箇所で下刈体験をしました。

熱心に質問する生徒

下刈りをする目的と安全について説明を受けた後、生徒たちは汗だくになりながら下刈鎌で作業を実施し、作業の大変さと、毎年広い面積を下刈している人々の苦労を実感しているようでした。

また、積雪や野ウサギ等の食害によって折れているもの、芯が枯損しているものが多数あり、自然の厳しさや、折れた下側部分から新葉がでている自然の力強さを体験を通しながら学んでいました。

最後に田山地区の水源となっている水源林に行き、湧水地と水源林を間近に見た生徒たちは山腹の岩盤から大量に流れ出る水を見て、「木の根の下からポタポタ落ちていると考えていた」など自分達が予想していた水源との違いに驚いている様子でした。

下刈作業の様子

この取り組みは、毎年度継続して地域発案システムとして取り組んでおり、年度初めに小学校側と打ち合わせを十分に行い年間の学習計画を作成し実施しているもので、今後2回計画されています。

水源の流量に感激する生徒

ボランティア団体と連携して森林浴道を整備

三陸中部森林管理署

北上山地のなかでも最も海に近い五葉山は、三陸では希に見るブナやヒバなど優れた自然景観が広がり「植物群落保護林」及び「自然観察教育林」に設定されています。特に、住田町側の山麓には、森林浴に適した自然林が広がり、昔の馬車道約2kmの

古道を歩くコースは絶好の散策の場として活用されています。

7月24日(日)、地元の五葉山自然倶楽部と住田町及び森林管理署との3者が連携し、自然観察の機能向上を図るため、保護林看板や案内標識の設置を行い散策路の整備を行いました。

ボランテア団体と連携するこのような取り組みは初めてでしたが、国際森林年である今秋に「森を歩く」のテーマと連動させた数々の散策イベントも計画されていることから半年前から準備が進み、署で看板を調達、倶楽部の会員の方々が作業に協力する形で行われました。

ボランティア団体による保護林看板の設置

当日の整備作業には、同倶楽部から15名の参加があり、看板設置などに汗を流しましたが会員の方は「五葉山の魅力を後世に伝えられるよう何か手伝いをしたかった。これでいい思い出が残せる」と満足気の様子でした。森林管理署では、この整備をきっかけに五葉山を訪れる人々が増え、活気があふれることを期待しております。

なお、この五葉山自然倶楽部は会員70名で平成10年に発足し今年で13年目、この間地元の自然豊かな五葉山の魅力を広く伝えようとさまざまな活動を展開しています。中でも地元東海新聞に「五葉山の魅力」と題し、2年余にわたりリレーエッセイが掲載されましたが、その内容を再編し「五葉山―それぞれの生きるかたち」と題し、10月には出版を予定するなど情報発信にも情熱的に取り組んでいる団体です(本誌に関する問い合わせは、五葉山自然倶楽部事務局長　千葉修悦氏まで)。

案内標識4基と樹名板22枚を取付

五葉山の魅力を発信し続ける自然倶楽部の皆さんと記念撮影

森と湖に親しむ旬間『田瀬ダム・森林探検隊』を開催

岩手南部森林管理署遠野支署

7月30日(土)、国土交通省田瀬ダム管理支所、電源開発東和電力所及び当支署による「田瀬ダム・森林探検隊」を開催しました。

この行事は、森と湖に親しむ旬間行事として毎年三者が協力して開催しているもので、今回は一般公募による3歳から65歳の老若男女16名が参加しました。

当日は、田瀬ダムの堤体内に入りダムの果たす役割や、発電所で発電の仕組み、森林の中で樹木や森林の働きなどについて参加者に理解を深めていただきました。

森林探検では、最初に支署長が、地球温暖化防止や土砂災害の防止など森林の果たす役割について説明しましたが、途中雨に見舞われてしまいました。それでも楽しみにしていた探検に出発、支署職員による樹木の働きや名前のいわれなどの説明に感心していました。中でも、子供たちは、予め職員が散策路に表示したクイズを元にした問いかけに元気な声で答え、「次はなあに?」「あった!」と歓声を上げたり、花や昆虫に眼を輝かせ、雨が上がるのも気付かないほど夢中になっていました。

今回は、他の行事と重なったせいか参加者が例年の半数ほどでしたが、森林の不思議さに驚きながら探検

支署職員の説明に聞き入る参加者

を楽しむ親子の姿が印象的でした。

「森林整備事業安全講習会」に参加して

仙台森林管理署 川崎森林事務所
森林官 高城允

7月28日(木)、伊具郡丸森町秋芝山国有林内において、宮城県森林整備事業協同組合主催による「平成23年度森林整備事業安全講習会」が開催されました。

この講習会は、宮城県内で国有林の造林、生産請負事業を担う民間事業体、森林組合等の関係者など約130名が参集し、当署はフィールドの提供を行い、東北森林管理局は安全指導の講師を派遣しました。

午前中の現地での講習会では、実際に当該箇所を請け負った事業体の作業員により、スギ2年生植栽地での下刈作業を行いました。作業中の足場・足元の確認の励行、上下作業及び接近作業の禁止、防蜂網の着用などを改めて確認しました。今年度に入り、夏場の請負事業体における災害がハイペースで増加している状況にあり、監督業務を行う森林官として、引き続き、作業内容についての指導を含め、労働安全の意識向上に向けた指導を丁寧かつ強力に行うことが大切だと感じました。

午後からは、白石市ホワイトキューブ・コンサートホールにおいて、大河原労働基準監督署安全専門官より、林業現場における労働災害の発生状況や対策について講話がなされたほか、東北森林管理局より、造林事業、生産事業において安全作業を行う上でのポイントについて指導が行われました。

具体的な内容をいくつか挙げると、ヒューマンエラー(人間への信頼性が機械に比べ、不確実な面が多いことに起因する失敗)による災害が多く、その対策としては、安全のルールを守る日頃からの雰囲気作りが大切であること(参考・「林材安全」平成23年1月号)、かかり木処理・刈払いの災害が毎年減らないが、原因が転倒・キックバックと同じであること、緊急連絡体制が実際に機能するよう再確認すること、などについて話がありました。

また、各講話後には今回参加された事業体の方々から、作業道具の選び方や補助金の交付状況などについて質問がありました。

これから各種事業が最盛期に入るところであり、この時期に安全講習会が開催されることで改めて安全意識を高め、労働安全の確保に向けた取組を強化していただきたいと思います。現場の森林官においても、今回の講習会で安全意識を再確認して指導していくことが大切だと思います。

下刈作業箇所での講習

夏休み親子森林教室の開催

指導普及課

7月29日(金)、仁別自然休養林(仁別国民の森)において、親子8組16名(子どもの参加は全て小学生以下)の参加で森林教室を開催しました。

当日は、小雨がぱらつくあいにくの天候でしたが、参加した子どもたちの目はキラキラと輝いており、仁別森林博物館周辺の自然観察では、同森林博物館ボランティア案内人会の方からいろいろな植物、昆虫、水中生物などを教えて頂き、手で触れたり、臭いを嗅いだりしながら歓声をあげていました。

昼食の後は、ドングリや小枝を使ったクラフト作りや、間伐材を利用したプランターカバーの作成を行い、親子で協力しながら力作を完成させていました。

最後に、当課職員が夜な夜な採取したクワガタを子どもたちにプレゼントし、盛り上がりは最高潮となりました。

今回の親子森林教室で、子ども達は、森の恵み、森の楽しさ、木のぬくもりなどを体験して頂けたと思います。

仁別森林博物館前で記念撮影する参加者一同(^ ^)/